

編集後記

今年の春は、桜の開花期間が長く卒業式も入学式も美しい花景色の中の思い出として残すことができました。そしてその桜の楽しみが終わるとともに、まったく違う春、マスク姿の目立つインフルエンザの春が訪れました。

ブタからヒト、ヒトからヒトへの感染と進み、地域もメキシコからアメリカ、カナダへと広がっていきました。大型連休を控えた日本では、海外からウイルスが持ち込まれないよう素早く水際作戦を展開しましたが、残念ながら完璧に防ぐことはできず、連休明けにカナダで国際交流活動に参加した高校生と教員3名が新型インフルエンザを発症しました。また、5月16日には海外渡航歴のない神戸の高校生の感染が発表され、国内感染者は翌17日に40名に、18日には130名に上り、関西地区を中心に急速に広がりを見せました。その速さに驚きを隠せませんでした。弱毒性であることも判明したので大きな混乱なく過ごせたと言えるでしょう。

今これを書いている6月16日の時点で、WHOの警戒水準は「パンデミック期」とされるフェーズ6であり、日本国内感染者は累計639人です。この中には、本学名古屋校舎と同じく三好町にある東海学園大学の3名の学生も含まれています。

この新型インフルエンザの感染状況は、いかにわたしたちが地球規模で移動しているかを示しています。様々な分野で国際交流の機会が増える中、こうしたリスクを完全に取り除くことは不可能ですが、交流によって危機が回避できることもあります。被災地への国際的支援です。今回も、日本でマスクが品切れ状態になると、台湾や天津、広東、上海など各地からマスクが送られてきました。すでに世界はつながっているのです。ですから、コミュニケーションに欠かすことのできないもの——ことばの学習がますます重要になっ

ていくに違いありません。この語研ニュースをぜひ皆さんの学習に役立ててほしいと願っています。

今号の語研ニュースは、辞書の選び方やリスニング練習など読んですぐに役立つ内容から、いにしへの文学・文化への想像の旅、今すぐ行きたい旅心をくすぐる内容まで、様々な角度から読者の皆さんの学習意欲をそそってくれたのではないかと思います。また、コンテストで優勝した作品の掲載は、同じ学ぼう者として励みになるものでしょう。実は、教える側にとっても励みになるものです。去年より腕をあげて再挑戦してくれることを期待し、今年の秋のコンテストを楽しみに待っています。

語研ニュースが一服の清涼剤となり、読者の皆さんの心と体の疲れを爽やかに取り除き、インフルエンザに負けずにこの時期を乗り切ってくださいることお祈りします。(U)